【様式３-１】

公益財団法人 樫の芽会　御中

伴走型就学・学習支援活動助成　実施報告書

【団体の概要】

		① 作成日	令和　６年　５月　２５日
②法人・団体名	一般社団法人若者応援ルームきよす（旧カウンセリングルーム９B）		
③所　在　地	〒452-0047 愛知県清須市西枇杷島町東笹子原５７		
④責任者氏名	若山隆	（役職名等）	代表理事
⑤担当者氏名	若山隆	（役職名等）	代表理事

【奨学活動の概要】

⑥助成交付決定番号	R05-025	⑦助成金額	50 万円	⑧申請カテゴリー	B
⑨奨学活動名	支援者と逆境を生きる若者が共に伴走し続ける力を育む、支援する				
⑩主な実施場所	一般社団法人応援ルームきよすの事業所施設内				

⑪活動内容とその成果の概要：子ども、若者に学習支援と居場所の提供という２本の柱があったがスタートは遅れたものの、学習支援においては目標を超えた６名、うち４名は定着し、宿題や試験対策、主要科目の他、心身に関する学習やワークも実施した。居場所の提供に関しては大人との交流の時間も充実し子どもや若者が世界観、社会性を学ぶ場にもなったと思う、また、発達・発達障害やトラウマの学習会には地域の子育て中の親や支援者などが参加し、今後の活動のための脚力をつける時間となった。

⑫奨学活動の定量的把握（注：統計情報として参考まで把握するものです。活動成果等は上段⑪及び様式３-２等でご報告願います。）

支援対象	延べ人数（Ａ：人）	平均時間（Ｂ：時間）	活動量（Ａｘ Ｂ）	備考・補足
中学生等	15	2	30	実数３人
高校生等	37	3	111	実数１人
大学生等	9	2	18	実数１人
学習支援員等	65	3	195	学習支援員実数６人　居場所支援ボランティア２人
その他	15	3	45	専門学校生１人、大学受験生（浪人）１人
合　　計			369	

⑬その他の定量的な数値（任意）

相談・カウンセリング	個人・家族（カウンセリング等）	実数 23 人
居場所の提供	ゲーム等での交流　一人の時間	毎週　３日程
若者集会	話し合い、料理づくり、BBQ 等	１５回
教室等	ゆる文字教室、読み聞かせ、健康麻雀教室	合計 14 回
お出かけ企画	釣り、ハイキング、　農業体験	3 回
研修会	企業、大学、地域	８回
勉強会	トラウマ、発達・発達障害	26 回
ケースカンファレンス	多職種による検討会等	随時
地域連携	ポプラの会、保健所等	８回ほど参加

【様式３-１】

【様式３-２】

令和５年度　伴走型就学・学習支援活動助成　実施詳細報告書

奨学活動名：支援者と逆境を生きる若者が共に伴走し続ける力を育む、支援する

法人・団体名：一般社団法人若者応援ルームきよす（旧カウンセリングルーム９B）

作成者　氏名：若山隆

１．取り組んだ課題や実践した目的・実施内容について（申請書より）

１．地域における伴走型支援のための基盤づくりのための活動

１）清須市、あま市等で、子どもや若者の支援を続けている事業所や不登校生支援グループや子育てのボランティアグループとの交流、イベントづくりのなかで学習支援員を含め「見知った支援仲間」づくりや子ども若者を中心としたまちづくりの意義について話あっていく取り組みを日常的に行う。

２）ケースカンファレンス等の実施

ケースカンファレンスを、学習支援や大学教員などにも声をかけ適宜実施し、支援活動の質的向上とともに、ケースの紹介引継ぎなども行い、若者の支援をつなぐ伴走型支援づくりの機会にしていきたい。（2 か月に１度、７、8 人の地域の支援者や学習支援員とともに開催）

２．伴走型支援を有効に受け続けるための青年側の「脚力」づくりの支援（週 1～2 日）

１）学習支援の実施（高校・大学・専門学校への進学、卒業、修了支援）

・若者の家庭状況、育ちを踏まえた、少人数によるきめの細かい関わり、支援を行う。

・年齢が近く、またロールモデルや目標としての役割を期待できる大学生や、経験豊富な社会人（シニア世代を含む）をボランティア学習支援員とする。

・支援対象の中心は、高校生世代（高校生、専門学校生、通信制高校生）とし、3 人～５人を目途に継続支援していく。

・大学生（1 名ほど）の学習支援も可能な学習支援員を確保する。

２）対人関係面等でのストレス耐性の拡張や情動的なコントールを身に着けられる場や時間の設　毎回あるいは定期的にマインドフルネスや心身的アプローチ、アサーショントレーニングなどを実施していく。

２．子どもと歩む力（脚力）の回復を支援するために、家族や親など保護者に対しても積極的に会う機会を設けて、生活全体や子育てに関する相談等を実施、継続していく。

２．実施した奨学活動の詳細

（１）伴走型支援を有効に受け続けるための青年側の「脚力」づくりの支援活動について

１）学習支援の実施（高校・大学・専門学校への進学、卒業、修了支援等）

①当初、若者と年齢が近い大学生による学習指導員を想定していたが、現在利用している子どもや若者の育ち、特性を考えると専門性があり（公認心理師、臨床心理士）、経験が豊富なシニア世代（幅広く数学が教えられるシニアスタッフや世界史に詳しい元新聞記者）が担当することになった。また、主要科目に限らない科目（音楽等）に高度なレベルで対応できるボランティアスタッフによる共に学び合うかたちでの学習支援を行った。

＜中学生２名　高校生１名　専門学校生１名　大学受験生（浪人生）１名　大学生１名（目標は 3～

5 名だった＞

②子どもたちが安全で安心な場で主要な授業科目、入試科目だけではなく協力する力、自己調節、忍耐力、集中力をはぐくめるような学びの機会の提供を目指した。（マインドフルネス、神経エクササイズ、アサーショントレーニングなど）

＜中学生１名（月に１，２回）　高校生１名（原則毎回）浪人生（隔週）＞

また、ボランティアスタッフを中心に楽器演奏＜ピアノ、ギター、ウクレレ、カホン等、**中学生１人、ボランティアスタッフ２名中心**＞の時間を随時もった。

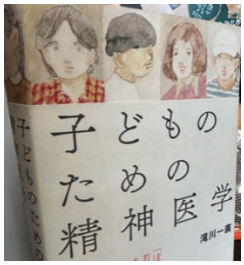
２）家族や親など保護者に対して子ども、若者と歩む力（脚力）を高め、回復し伴走していくことを目指した支援活動について

①学習会を定例開催し経験や知見の交流を行った

毎月２回事業所内でのテキスト使った学習会を開催した。

＜第２火曜日グループ午前 10 時～対面方式　毎回３，４名の参加、第３金曜日グループ午後８時半～毎回５，６名の参加 zoom 方式＞

そのなかで、子どもの発達や発達障害等についての知識が深まり、また参加者の経験や知見の交流を行うことができた。



②上記①の学習活動を一層深めていくために、1 月～3 月までの間に、トラウマ、ICF、合理的配慮をテーマに学習会を開催した。

・日時　2 月 25 日（日）対面＆zoom 方式

＜８名参加　３月 15 日（金）zoom　６名参加＞

テーマ「トラウマをめぐるいろいろ－発達性トラウマ障害から簡易処理まで」若山和樹さん（名古屋掖済会病院　臨床心理士　公認心理師

・日時　３月１日　対面＆zoom 方式　　**＜１３名参加＞**

テーマ「地域に根を下ろした子育てに向けて～ICF 国際生活機能分類の考え方を参考に～」

話題提供者　國中咲枝さん　東京都調布市在住　二児の母(長男は発達特性あり) 社会福祉士、精神保健福祉士、 元キャンパスソーシャルワーカー キャンパスソーシャルワークネットワーク世話人

・3 月 29 日(金)zoom 方式　「教育現場における合的配慮」　zoom 方式　**＜9 名参加＞**

講師　澤田佳代さん　（静岡大学助教　浜松修学サポート室 ）

3）その他　人といても安全、安心感が得られ、人といることでできる活動

①学校で学べない経験できないような学びの時間

・「読み聞かせの時間」 竹花孝則さん（元新聞記者）

2023 年 8 月 18 日　夏目漱石『夢十夜』　　**＜8 名参加＞**

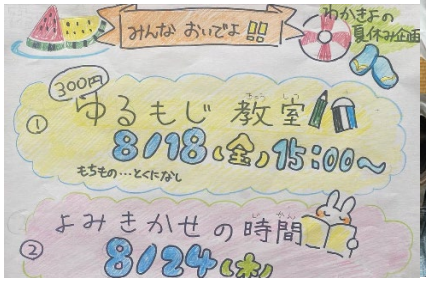
12 月 16 日　森鴎外『舞姫』　　**＜7 名参加＞**

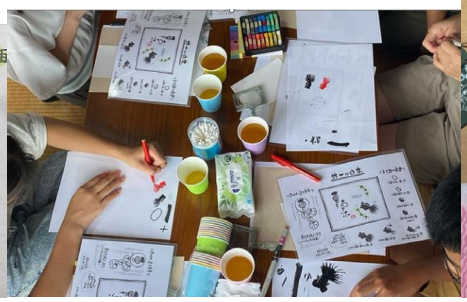
2024 年 3 月 30 日　三浦哲郎『忍ぶ川』　　**＜7 名参加＞**

・「ゆるもじ教室」　西脇久美子さん（小牧市　一般社団法人理事）

2024 年 8 月 18 日**＜7 名参加＞**

2024 年 12 月 1 6 日**＜8 名参加＞**





① 若ものとのグループ活動

2017 年ころから開催している発達の課題を持った若者とのグループ活動を毎月継続開催した

月 2 回の定例会（東海市でのよこすか集会、清須市でのきよすか集会）

・きよすか集会では、食事づくりに挑戦**＜毎回 3 名～10 名＞**

・　　・よこすか集会**＜毎回 5～7 名参加＞**では、花見＆BBQ,、海釣り体験も

2 つの集会合同で、花見、BBQ を開催

4）地域やボランティア活動との連携

①清須市社会福祉協議会登録団体「ポプラの会」の活動（講演会等、交流会）に積極的に参加し、参加者との交流（「見知った関係」づくり）を進めるなかで「子どもと若者を中心とした街づくり」の機運が高まっていった。

ポプラの会（現在作成中のリーフレットより）

＜主なイベント＞

2023 年 7 月 11 日「不登校　引きこもり　保護者や当事者のための座談会」清須市市民センター

＜21 名参加＞

11 月 22 日「生きづらさを抱える」子どもの本音と不登校支援」

2024 年 3 月 21 日　「学校に行くのがつらい子どもたちと保護者のための交流会」清須市清州総合福祉センター　**＜31 名参加＞**

5）周知方法や協力していただいた関係者

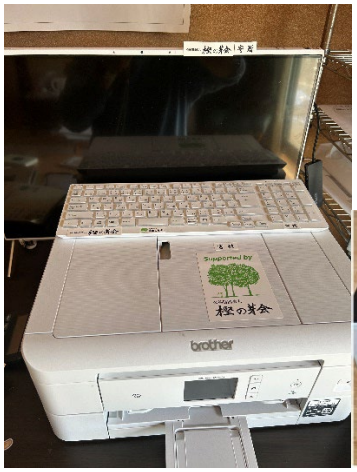
当事業所の活動に協力して頂いたのは、もともと事例検討高会に参加してくださったメンバーをはじめ上記清須市を中心としたボランティアグループ、サークルで子育て、障害を持つ子どもの親たちが結集した「ポプラの会」や、代表理事の小学校、中学校、大学の同級生および働いていた大学（日本福祉大学）の卒業生たちであった。本事業の活動は、これらの方々から口コミでの周知から出

発し、今はボランティアの若者たちに、ホームページを作成してもらっている。また、この間の取り組みは、line のネットワークやインスタグラム中心に広報、周知活動を行ってきている。

学習会が終わったあとでの地域の仲間との懇親会（2013 年 12 月 16 日）

・購入した機材・物品

会計処理やチラシの作成、SNS の発信地として活躍してくれたパソコン・プリンター および研修会、学習会ではプロジェクターが活躍した



3.本活動から得られたもの、反省点、課題、今後への発展性、等

本事業所にとって、地域の方々のなかに子どもと若者を中心とした街づくりの気運が高まった頃に活動を始められたことは大変幸運だった。開始早々から、個人、団体、グループが声をかけてもくださり、活動仲間を得ることができ、行政や地域福祉に関する貴重な情報を得ることができた。

清須市には、県で屈指の出生率を誇る地区がある一方で、子どもの姿を見ることが極端に減った地区もあり、そこが本事業所の所在地であった。このように、子ども若者が極端に少ない地区で、「子ども若者のための街づくりをする」ことになり、事前調査の不十分さを大いに反省した。いきおい利用者の確保が困難な課題を最初から背負うことになった（数的には達成したが）が、それゆえに、声をかけてもらえた個人、団体からの利用者の紹介などといった協力を得る必要があり、地域連携が本事業所の発展性を支えてくれる柱となっていった。今後も一層地域の仲間の活動を支える知見や支援

者の力量アップにつながる活動に力をいれていきたい。

4.本活動におけるエピソード、思い、感想、等

現在、学習支援スタッフでは十分なサポートできない専門的）な内容（コンピューター関係を学ぶ若者がいる。彼に対して本事業所でできることは、中学時代不登校だったため内容的に穴があいている基礎数学のサポート（中学に通っていなかった）以外は、安全で安心な空間で学習に集中できる時間と、休憩の合間に一息ついたり、ゲーム（ダーツや健康麻雀など）をする居場所の提供ぐらいだった。しかし、それが、彼にとってオンとオフというめりはりが付いた時間になったようで、数度の挑戦で難しい国家試験に合格することできた。また、オフの時間には、シニアのボランティアとの交流のなかで大人の知恵を得るなかで、友人たちとも遊びにいったりアルバイトを始めたりもした。本事業所ではじめたダーツの腕前もあげ、プロと互角の試合ができるまでにもなった。

一方で、このような安全で安心な空間を作ることつくることができたのは、人の目を極端に気にするひきこもりの若者の協力があったからで、事業所の引っ越しや庭づくりを人に見られることなく一生懸命手伝ってくれた。彼との中庭（パティオ＝塀に囲まれ、周りかは見られない）づくりのなかで、こういった空間こそが、家の中でも外でもない安全で安心な成長促進的な居場所になることが分かってきた。ここでは、一人でいることを保証し、また遊びや食事づくり等を通しての交流（食事をつくる、一緒に食べる）等の機会を提供できる。このような活動のなかで、子どもや若者の心の中に「人といることの安全感、安心感」が培っていけたらという思いが強くなっていった。

以上